

			近代茶道の祖・玄々斎、金沢に逗留（茶室造設の指導を受けたか） 高岡綿場に綿荷宿願いを出す
石川県となる 磨刀令	明治9年	1876	
伏木港灯台建設 第一回内国勸業博覧会 西南戦争 西南戦争従軍兵にコレラ流行	明治10年	1877	金沢第十二国立銀行設立。13代、棟頭の一人に名を連ねる
明治天皇北陸御巡幸 石川県射水郡となる	明治11年	1878	明治天皇御巡幸に際し天田新道造成に協力
全国的にコレラが大流行 金沢病院落成	明治12年	1879	13代 県会議員となる 新湊にもコレラ大流行 この頃の所有船は神速丸、歡喜丸の2隻のみ
	明治13年	1880	13代 知力の培養を図る為「新聞縦覧所」開設
松方正義、大蔵卿に就任 松方正義の財政政策が始まる	明治14年	1881	藤井能三ら発起人の越中風帆船会社、北陸通船会社に出資 前田利嗣公より東北鉄道会社設立の為の株金募集が呼びかけられる
	明治15年	1882	倉庫業を営む？
富山県となる 伏木測候所設立	明治16年	1883	資金難となり棟取ら私費で金沢為替会社へ増資 北陸銀行（現在の北陸銀行ではない）と改称 有志で金澤商法講習所開設
高岡米商会所開始	明治18年	1885	13代、高岡米商会所副頭取となる 松方財政の影響を受けた金沢為替銀行経営の立て直しの為、渋沢栄一に相談。第一国立銀行より拾万円、株主、石川、富山各県より資金を借り入れて立て直しを行ったがかなわず。
、	明治19年	1886	金沢為替会社倒産、 金沢第十二国立銀行倒産、北陸通船会社倒産 銀行、高岡米商会所から手を引く
	明治20年	1887	北前船の経営から手を引く
大日本帝国憲法発布	明治22年	1889	放生津有志ら7名と 『放生津築港に付建言書』を当局大臣に提出
南嶋間作が汽船を購入し運輸業を開始	明治23年	1890	
藤井能三 『伏木築港論』発表	明治24年	1891	
	明治25年	1892	13代逝去 茶室が鳥山敬二郎に引き継がれる
藤井能三 中越鉄道会社設立発起人となる	明治26年	1893	13代彦九郎追悼漢詩集作成
日清戦争	明治28年	1895	
伏木港が開港場指定を受ける	明治32年	1899	
伏木港築港工事始まる	明治33年	1900	